●〈症例〉

Schönlein-Henoch紫斑病に合併した大腸病変の1例

倉形 秀則¹⁾ 渡邊利泰 佐藤直嗣 五味志奈
高橋 敬二 菊池由宣 北条 裕 蜂矢朗彦
五十嵐良典 住野泰清 三木一正 瀧田 渉²⁾
浜谷 茂治³⁾

¹⁾東邦大学大森病院／消化器内科, ²⁾同／消化器外科, ³⁾同／病理部
〔Key Words〕 Schönlein-Henoch紫斑病, 大腸病変

はじめに

今回, われわれはSchönlein-Henoch紫斑病(以下, SHP)に合併した大腸病変の1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 72歳, 男性。

主訴: 血便。

既往歴: 68歳時下行結腸癌で腹腔鏡下部分切除, 70歳時脊髄小脳変性症。

家族歴: 両親に心疾患。

現病歴: 平成15年6月2日両下肢伸側部に径2~3mmの皮下出血が出現した。当院皮膚科受診しアレルギー性病変と診断され, 抗アレルギー剤の処方を受け経過観察とされた。この時より咳嗽時に増強する左胸部痛を自覚していた。6月14日から腹痛, 下痢, 血便が出現し, 次第に増強するため, 6月16日当科を受診し, 即日入院となった。

入院時現症: 吸気時に左胸部の違和感あり。左下腹部に自発痛, 圧痛あり。両側下腿伸側部を中心に紫斑を認めた(Color 1)。

入院時検査成績(Table 1): 炎症反応は亢進し, 軽度の貧血と血小板増多を認めた。尿蛋白は陽性であった。第XⅢ因子の低下はなく, IgAは正常であった。

入院後経過: 下部消化管内視鏡検査(以下, CF)では, 盲腸から直腸にかけて正常粘膜を介して多発性に潰瘍形成を認めた。いずれの潰瘍も周辺粘膜は浮腫が強く隆起し発赤していた。左横行結腸では潰瘍は縦走化し, 下行結腸では全周性に強い浮腫, びらんを来し, 虚血性腸炎の像を呈していた(Color 2-a~c)。潰瘍辺縁の組織像は, 非特異的炎症所見であった。潰瘍底組織, 及び便培養では結核菌, 病原菌は陰性であった。血清学的にアメーバやサイトメガロウイルスも陰性であった。上部内視鏡検査では食道・胃・十二指腸に病変は

Table 1 Laboratory data on admission.

Hematology			Serology		
WBC	8800	/ μ l	CRP	11.8	mg/dl
RBC	465 $\times$ 10 ⁴	/ μ l	Blood coagulation		
Hb	13.6	g/dl	PT	87	%
Hct	42.9	%	APTT	39.2	sec
Plt	45.9 $\times$ 10 ⁴	/ μ l	Ⅲ Factor	90	%
Blood chemistry			Serological test		
T.P	7.8	g/dl	Ig-G	1059	mg/dl
Alb	3.7	g/dl	Ig-A	280	mg/dl
T.bil	0.5	mg/dl	Ig-M	68	mg/dl
GOT	12	IU/l	C3	128	mg/dl
GPT	7	IU/l	C4	24	mg/dl
LDH	354	IU/l	CH50	52	U/ml
BUN	20	mg/dl	Urinalysis		
Cre	0.96	mg/dl	Protein		+
FBS	121	mg/dl	Sediment	RBC	-
CK	100	IU/l		WBC	-

認めなかった。絶食, 中心静脈栄養法にて血便及び腹痛は数日で消失した。最終的に皮膚生検組織像にて, 白血球破壊性血管炎像を認めた(Fig. 1)ため, SHPに伴う下部消化管病変と診断した。プレドニゾロン(以下, PSL)30mg/日を投与したところ, 約2週間で紫斑が消失し, CFでは潰瘍は縮小傾向を示し, 下行結腸も再生粘膜の出現を認めた(Color 3-a, b)。その後は約2週間でPSL10mgずつ減量しつつ, 食事を開始した。再燃傾向を認めなかったため最終的に5mg/日を1カ月継続し投薬を終了した。尿蛋白は一過性に出現しただけで, 腎症の合併はなかった。現在外来にて7カ月経過観察中であるが, 再発を認めていない。

また, 入院時の胸部CT(Fig. 2)で左尖後区に胸膜肥厚を伴う腫瘤像を認めた。生検の結果, 胸膜中皮腫であった。これに対しては無治療で経過観察中である。

考 察

SHPに伴う消化管粘膜病変は全消化管にびまん性に出現する。消化管粘膜病変としては十二指腸下行脚における潰瘍形成が最も多く認められる所見である。小腸・大腸病変の報告例は多くないが, 高頻度に認められ, 特に小腸では潰瘍病変が71%と高率である¹⁾。しかし, 大腸病変に関しては直腸, S状結腸に軽度の紫斑様病変を認めることが多く, 潰瘍形成は少ないとされる²⁾。

今回, 我々は1993年から2003年の11年間の医学中央雑誌より16歳以上の成人発症の消化管病変を認めたSHPについて検索した。自験例を含めた55例の報告のうち, 大腸病変合併例は20例で, 潰瘍形成を認めたものは9例(45%)と高率であった。発生部位は盲腸から直腸にわたり, 発赤や紫斑様病変から浮腫, びらんと多彩な病変が多発する傾向であった。こうした多彩な病変形態は, 血管炎の程度によるもので, 血管障害が高度になると二次的血栓のため微小循環障害を生じるためとされている³⁾。今回経験した潰瘍は周辺粘膜の

Fig. 1 The biopsy specimen of skin showed excess of erythrocytes and perivascular cellular infiltration. (H. E staining, x100)

浮腫が強く隆起し、いわゆる紫斑様病変とされる発赤を呈しており、SHPに伴う大腸病変として特徴的な形態と考えられた。

また、これまでの報告例で大腸病変の生検組織に血管炎を確認し得た症例はなかった。超音波内視鏡を用いた小児の症例では、炎症の主座は粘膜下層であったとされ、生検により主病巣を採取することが困難であることが示唆された。

文 献

- 1) 田畑美帆, 古市好宏, 杉木修治, 他: 内視鏡にて小腸出血を確認し得た Schönlein-Henoch 紫斑病の 1 例. *Prog Dig Endosc*, 58: 108—109, 2001.
- 2) 大川清孝, 青松和撰, 大平美月, 他: 3. 膠原病, 免疫・アレルギー疾患 8) Schönlein-Henoch 紫斑病. *胃と腸*, 38: 559—565, 2003.
- 3) 数森秀章, 大西康則, 宮崎忠顕, 他: 特異な消化管病変を呈した Henoch-Schönlein Purpura の 1 例. *島根醫學*, 17: 71—81, 1997.

Fig. 2 Chest CT scan revealed a solitary mass lesion in S1+2 of the left lung.

A case of colonic ulcers in patient with Schönlein-Henoch purpura

Hiddenori Kurakata ¹⁾	Toshiharu Watanabe
Naotsugu Sato	Shina Gomi
Keiji Takahashi	Yoshinori Kikuchi
Hiroshi Hojo	Akihiko Hachiya
Yoshinori Igarashi	Yasukiyo Sumino
Kazumasa Miki	Wataru Takita ²⁾
Shigeharu Hamatani ³⁾	

A 72-year-old male was admitted to our hospital, complaining melena, abdominal pain and purpuric rash appeared in the bilateral lower legs. The colonoscopy demonstrated multiple ulcers from the cecum through the rectum. Histological specimens taken from the margin of ulcers revealed non-specific inflammation. No pathogen was confirmed in physiological and immunochemical findings. Cutaneous biopsy showed leukocytoclastic vasculitis. He was treated with total parenteral nutrition and intravenous injection therapy of prednisolone under a diagnosis of Schönlein-Henoch purpura. The symptom and purpura improved in 3 days and in 2 weeks.

We investigated 55 reports of adult patients with Schönlein-Henoch purpura with apparent digestive lesions during last 11 years. We confirmed that the colonic ulcers with edema were specific involvements of Schönlein-Henoch purpura.

¹⁾Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, ²⁾Department of Surgery, ³⁾Department of Pathology, Toho University, School of Medicine.

〈カラーは 7 頁に掲載〉